

「命の道」を懸命にアピール

新潟山形南部連絡道路

事業の凍結解除に向けて緊急大会

新潟山形南部連絡道路建設促進期成同盟会の緊急総決起大会が六月二十一日、村民会館で開催されました。

この大会は、道路整備の費用効果が下回ったことを理由に、国土交通省が三月三十一日に発表した事業の一時凍結

の解除を求めて行われたもの。村内外から約五百人が参加し、鷹ノ巣道路の事業凍結解除を一丸となって訴えました。

大会では、同盟会副会長の平田大六関川村長が「迂回路がなく、住民の生命を守る『命の道』は、数値で表すことが

将、佐藤恵美子さん（高瀬）

は「自然を生かした観光にも道路が必要不可欠。観光面でも連絡道路は『命の道』です」と道路の必要性を訴えました。翌六月二十二日、国土交通

省の事業評価監視委員会で、鷹ノ巣道路の事業凍結解除が決定されました。



鷹ノ巣道路の事業の必要性について、参加者が一丸となって訴えました。

「できない」と、あいさつ。また、沿線市町村の住民四人が連絡道路の必要性について意見を発表しました。山形県小国町の主婦、大久保恵子さんは「全国的な婦人科の減少から、出産のために村上市へ通わなければなりません。私にとっては、かけがいのない道です」と発表。また、関川村温泉旅館の女



「凍結解除の想い」を住民代表として発表した、佐藤恵美子さん（高瀬）

